

## 総括

- 港の役割は後背地の産業振興であることは自明であること。
- 港湾取扱貨物は大別してコンテナ貨物と在来・バルク貨物があるため、それぞれへの対応が必要である。
- コンテナ貨物については規格化されたコンテナという荷姿であるため、物流特性によって港湾物流機能の集積のあり方を検討する必要がある。端的に言うならばコスト重視型の貨物なのかサービス重視型の貨物なのかということになる。瀬戸内には多くの港があるため、後背地産業が生み出す貨物の物流特性に応じたピンポイントでの機能集積を個々の港湾が進め、それをその港湾のコア・コンピタンスにすることが必要である。
- 港湾間の連携に関しては各港湾が持つコア・コンピタンスにもとづいた相互補完関係を構築するとともに、東の阪神両港、西の門司・博多両港との役割分担を明確にして中国地方全体の物流効率化をはかるべきである。スーパー中枢港湾政策の一環として行っている内航フィーダーの社会実験もこの文脈の中にある。
- コンテナ港湾の公共埠頭専用貸しについては、専用貸しのメリットが発揮できる状況を作る必要がある。たとえば荷役作業の共同化等、ターミナル運営の一元化を進めることが前提条件となる。
- 在来・バルク貨物については、大量輸送、地元定着型といった特性がある。とりわけ瀬戸内のモノづくりを特徴付けているのは臨海部コンビナートの存在であることを考えるならば、コンテナ物流機能の強化とは別個に在来・バルク貨物物流の効率化を重視することが必要である。